

共同テーブル **10.17** 第7回シンポ

沖縄を再び戦さ場にするな！

— 沖縄・南西諸島からの訴え

村落のすぐそばに弾薬庫がつくられ、公道を戦車が走り回り、住民の抗議を排してミサイルが運び込まれる。「シェルター」がつくられ、自衛隊司令部は地下化され、港湾は軍艦用に整備され、「島外避難」用の「基金」設置を検討する自治体もある。沖縄・南西諸島の現実です。麻生某の「戦う覚悟」を求める暴言は県民には衝撃でした。

このままでは県民の命が危ない。玉城デニー知事は「抑止力を先行させるのでなく、有事をおこさせないことだ」と中国を訪問しました。

一気呵成に強行される沖縄・南西諸島の軍事要塞化に抗し、人びとが連帯して立ち上がり始めました。「沖縄を再び戦場にさせない県民の会」が発足し、11月23日には県民大集会が開かれます。

43兆円もの税金を戦争準備につぎ込む政治を阻むため、沖縄県民と共に立ち上がりましょう。「県民の会」・山城博治事務局長と宮古島市議員・下地茜さんを迎え、何が起きているのかを聞き何をなすべきか考え話し合いましょう。

日時 2023年 **10月17日** (火) 18時20分～21時
(18時10分開場)

会場 文京区民センター 2A会議室
(都営三田線春日駅A2出口すぐ)

主催 共同テーブル 資料代 800円

報告

▶ 山城 博治

(沖縄を再び戦場にさせない
県民の会・事務局長)

▶ 下地 茜

(沖縄県宮古島市議会議員)



シンポジウム

何が起きているのか、何をなすべきか

- ▶ コーディネーター 佐高 信 (評論家)
- ▶ パネリスト 山城博治 (沖縄を再び戦場にさせない県民の会・事務局長)
下地 茜 (沖縄県宮古島市議会議員)
明真南斗 (「琉球新報」東京支社記者)
岡崎宏美 (社民党市民共同 新社会党委員長)

- 沖縄選出国会議員あいさつ / ● 参加者からの発言・討論
- まとめ 瀬瀬 厚 (山口大学名誉教授)

● 申し込み先

多くの参加者が見込まれます。定員 (350名) になり次第、申し込みを締め切りますので、至急、下記のメールアドレスまで、参加申し込みをお願いいたします。 E-mail : e43k12y@yahoo.co.jp

「新しい戦前にさせない」共同テーブル・アピール

暮らし(いのちき)は武器で守れない

暮らしを大分では(いのちき)と呼ぶ。いのちを連想させる味わい深い方言である。政府は憲法9条を捨てて軍備拡大に踏み出そうとしているが、それは生命を削り、暮らしを壊す道である。暮らしと軍拡は両立しない。戦火の消えないアフガニスタンで、中村哲さんは井戸を掘り、暮らしを建て直して平和を築こうとした。憲法9条を持つ日本の中村哲さんはそれまでフリーパスでアフガンを歩くことができた。しかし、イラクへの自衛隊派遣が、その平和のパスポートを奪う。だから、哲さんは国会で「自衛隊派遣は有害無益」と訴えた。軍隊が国民を守らないことは旧満州や沖縄の例で明らかである。

軍備に頼らない平和を求めるために、私たちは「安保三文書」を徹底批判する。暮らし(いのちき)か、軍拡か。三橋敏雄という俳人は「過ちは繰り返します秋の暮」と詠んだが、私たちは愚かな軍拡の道を選ばない。

2023年春

共同テーブル発起人

浅井基文(元広島平和研究所所長・政治学者) 安積遊歩(ピアカウンセラー) 雨宮処凛(作家・活動家)
植野妙実子(中央大学教授・憲法学) 上原公子(元国立市長) 大内秀明(東北大学名誉教授) 大口昭彦(弁護士・救援連絡センター運営委員) 海渡雄一(弁護士) 鎌倉孝夫(埼玉大学名誉教授) 鎌田 慧(ルポライター) 金城 実(彫刻家) 瀧 厚(山口大名誉教授・歴史学者) 古今亭菊千代(落語家)
佐高 信(評論家) 清水雅彦(日体大教授・憲法学) 白石 孝(NPO 法人官製ワーキングプア研究会理事長)
杉浦ひとみ(弁護士) 竹信三恵子(和光大名誉教授・ジャーナリスト) 田中優子(前法政大学総長)
鳥井一平(全統一労働組合・中小労組政策ネットワーク) 古田兼裕(弁護士) 前田 朗(朝鮮大学校講師)
宮子あずさ(随筆家) 室井佑月(小説家・タレント) 山城博治(沖縄平和運動センター顧問)

「共同テーブル」はこれから多彩なテーマとパネリストで、連続シンポを企画していきます
共同テーブル HP に、賛同申し込み書式があります。それに記入していただければご案内をメールでさしあげます。